

伝えたい
アイヌ民族の紋様

これまで
何代にも受け継がれ、
これから
何代にも伝えられるべき美がここにある。

小川 早苗
加藤 町子

伝えたい アイヌ民族の紋様

小川 早苗 加藤 町子

先住民族の言葉、生活習慣、儀礼の全てを禁止されて御先祖様と生きてきた。
自然の中で人間を守る動物や、主食の鮭、木の実や海藻、植物に感謝し、食して生きる。

【目次】

出版に寄せて		4
着物		5
小物・手回り品		97
タペストリー		113
あとがきにかえて		147
収録作品		150

【出版に寄せて】

このたび、アイヌ紋様刺繍作家である小川早苗さんが、同じく刺繍作家であった妹の故加藤町子さんとの共著という形で、作品集を出版されますことは、誠に時宜に適っております。2020年（令和2年）4月には北海道白老郡白老町に民族共生象徴空間『ウポポイ』が設置されます。このウポポイは、アイヌ民族は日本における先住民族であるという認識のもと、アイヌ文化の復興・発展のための拠点となるナショナルセンターとして国が設置するものです。

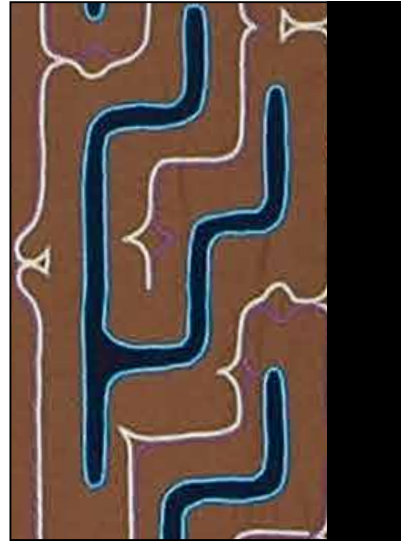
小川早苗さん姉妹は、アイヌ紋様を曾祖母から継いで五代になるという歴史と伝統を背負っております。北海道開拓という明治政府の政策は、先住民族であるアイヌの存在を無視したものでしたが、国はその後もアイヌ民族に対する社会的な差別を長い間にわたって放置してきました。アイヌ民族の先住性を認めアイヌ文化の振興と普及に国として本格的に取り組むようになったのは、アイヌ文化振興法が制定された平成9年（1997年）からになります。このような法律の制定の陰には、アイヌ民族自身の独自の文化伝承の努力と営みがあったからです。小川さん姉妹が、アイヌ文化伝承の会「手作りの会ウタラ」を設立して、生徒さんを教えるようになったのは昭和57年（1982年）です。また、小川早苗さんは、平成23年（2011年）には、当財団がアイヌ文化の継承、振興にかかわる活動を奨励するアイヌ文化奨励賞を受賞しています。

個人的にも、早苗さんの配偶者である小川隆吉さんとは、1980年代にアイヌ新法に関する北海道知事の諮問機関であるウタリ問題懇話会で一緒に、活発な意見交換をした思い出が鮮明にあります。小川早苗さんがアイヌ文化伝承家として活躍されていることは、そのころより熟知しております。

この作品集には、「自分はアイヌ民族として生きてきた。多くの和人に理解してほしい」という作家の思いが込められています。多くの読者がその思いを理解してくださることを願っています。

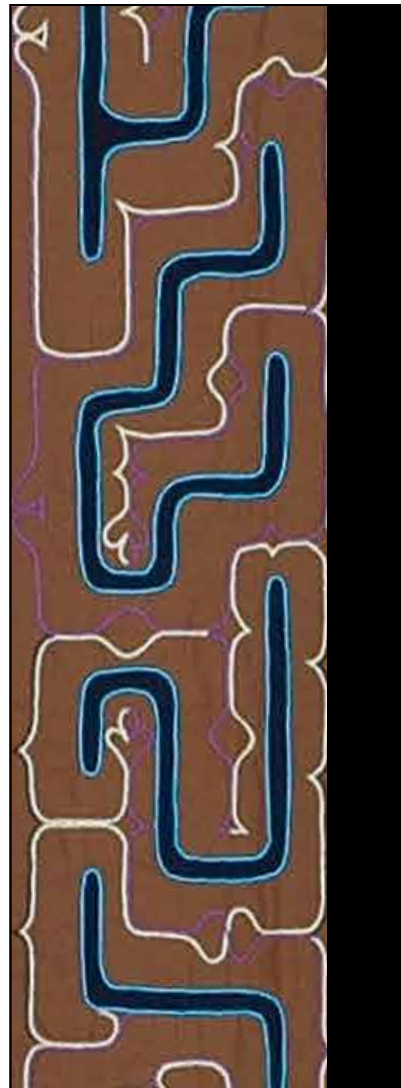
2020年1月吉日

公益財団法人アイヌ民族文化財団理事長
中村睦男



着 物

チカラカルペ





1

〈うしろ〉

サクリ（黒烈置紋衣）

作者：不明

昔はアットウシ（樹皮から作った布）で作られていたが、その後、交易で手に入れた縦縞の木綿布を用いて着物に仕立て、その上に黒地の布を切り伏せ縫いし、赤い糸でイラカリを刺し、周りを白木綿糸でパラオホを刺す。手間のかかる紋様のため、主に男性が儀礼用に着用。



〈前〉

テッパエカシ（曾祖父）が着用していた儀礼用の晴着。明治の初め頃、制作されたと思われます。
小川家に預けられたため、目にする度にエカシのやさしさと厳しさが思い出されます。



2

〈うしろ〉

サクリ（黒烈置紋衣）

作者：小川早苗



〈前〉

儀式の手伝いをする際に用いました。



3

〈うしろ〉

チンデリ（無切伏刺繍衣）

作者：不明

チンデリは、切伏を置かず糸のみで伝統の紋様を濃紺や黒地の木綿布で仕立てた着物に直接刺繍したもの。中心が白のイカリ刺し、その両側をパラオホで刺している。



〈前〉

テッパエカシは、チンデリを着ていることが多く、たいへんよく似合っていたのを覚えています。
明治初期の作と思われます。



4

〈うしろ〉

チンデリ（無切伏刺繍衣）

作者：不明



〈前〉

テツパエカシが着用していたチンザリです。



5

〈うしろ〉



〈前〉

チンヂリ（無切伏刺繍衣）

作者：不明

江口ミキが使用。



6

〈うしろ〉



〈前〉

チンヂリ（無切伏刺繍衣）

作者：小川純子



7

〈うしろ〉



〈前〉

チンゼリ（無切伏刺繍衣）

作者：吉野結花（刺繍）、奈良禮子（仕立）

伊沢オヤエフチがワッカウエンペツ（新十津川）でオリジナルを作成し、妹・伊沢コヤエフチが使用していた着物を模写したもの。



8

〈前〉



〈うしろ〉

チンヂリ（無切伏刺繍衣）

作者：浦川カタコ



9

〈うしろ〉



〈前〉

チンゼリ（無切伏刺繍衣）

作者：不明



10

〈うしろ〉



〈前〉

チンザリ（無切伏刺繍衣）

作者：浦川カタコ



11

〈うしろ〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子

ルウンペは、木綿地に絹や更紗の布を切伏せ縫いして紋様を施したもの。

下書きした絵の上に帯状の布を“道ゆくように”置き、からみ縫いやイカラリで刺す。

色布、柄布をふんだんに使って配色するのが特徴。道南地方で多く見られる。



〈前〉



12

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



13

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



14

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子、生徒



15

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子、生徒



16

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子

アメリカのイリノイ大学の体育館で展示された作品。



17

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



18

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



19

〈うしろ〉



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子

〈前〉



20

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



21

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



22

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



23

〈うしろ〉



〈前〉

ルウンペ（色裂置紋衣） 短衣

作者：生徒合作



24



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：生徒合作 儀式の準備に使用。



25



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：生徒合作



26



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：不明



27



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子指導



28



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子



29



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子（指導）、生徒



30

〈うしろ〉



ルウンペ（色裂置紋衣）

作者：加藤町子

〈前〉



31

〈うしろ〉

カバラアミッ（白布切抜紋衣）

作者：チンフチ

木綿布が豊富に手に入るようになった明治時代ごろから作られるようになった。

大判の白い布を紋様の形に切り抜き、縁を折り込みながら「からみ縫い」やイカラリで木綿布に縫いつけていく。

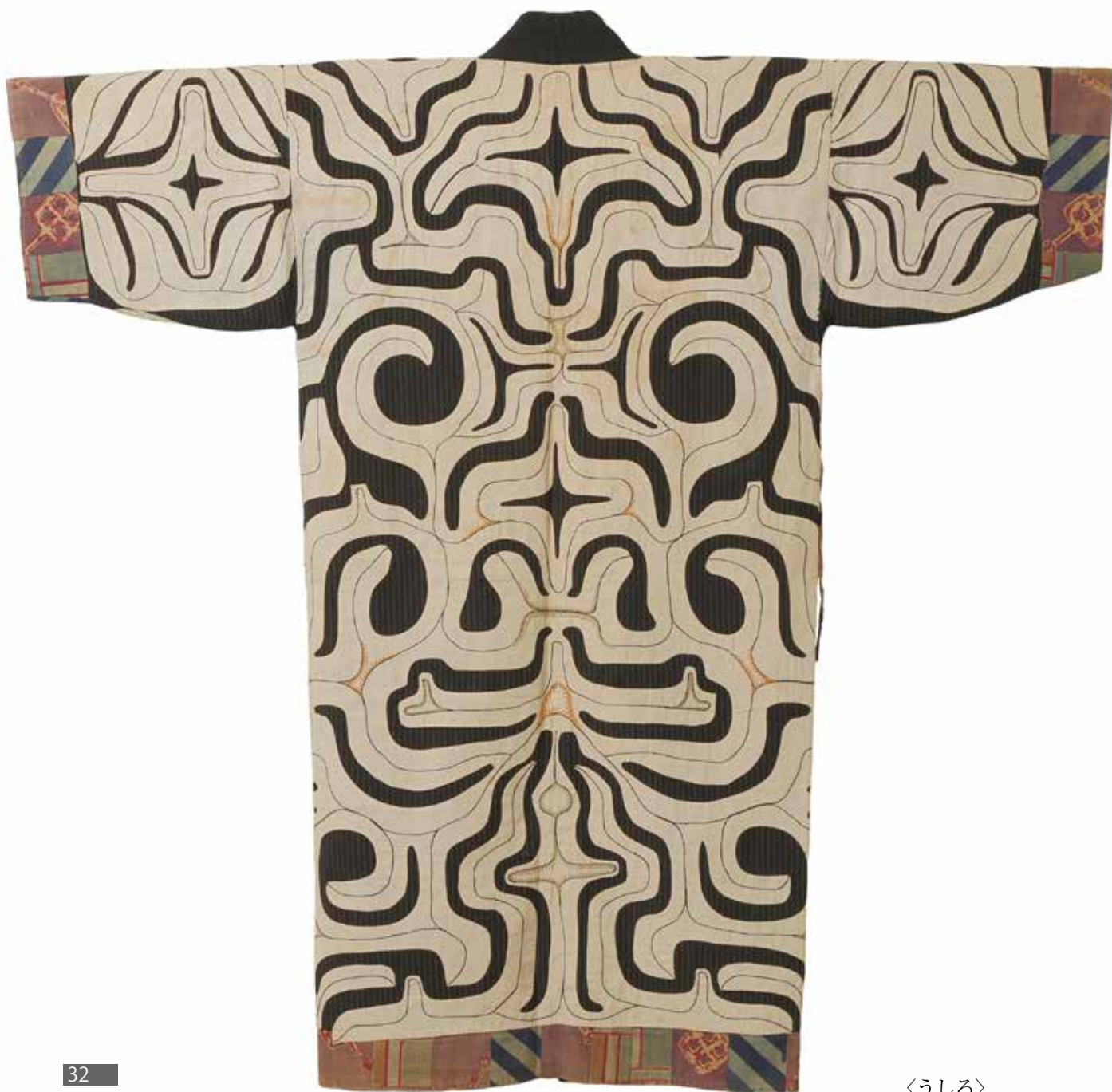
主に晴れ着として着用。



〈前〉

幌村チンフチが作ったカパラアミブの晴れ着です。

東別地方（現在の日高郡新ひだか町）に伝わる紋様が使われています。



32

〈うしろ〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）
作者：ウボボアンフチ
明治初期の作品。



〈前〉

ウポポアンフチの母方に伝わる紋様を継承しています。



33

〈うしろ〉

カパラアミツ（白布切抜紋衣）
作者：三石ウボポアンフチ



〈前〉

ウポポアンフチやその娘たちが、儀式の際に着用していました。



34

〈うしろ〉

カパラアミッ（白布切抜紋衣）
作者：ウポボアンフチ
静内三石の紋様。



〈前〉

この紋様は静内三石に伝わるものです。

ウポポアンの三女・ヨシノ氏の着物（チカラカルペ）で、ツネが花嫁衣にしました。



35

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミナ (白布切抜紋衣)

作者：小川早苗

小川早苗の初めての作品。コタン (集落・村) のウタリ (仲間) に大変喜ばれた。



36

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミツ (白布切抜紋衣)

作者：作者不明

三石、静内地方の紋様。

『44』と同じ紋様。



37

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：ウポボアンフチ



38

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：浦川カタコ

初期作。



39

〈うしろ〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）
作者：浦川カタコ



〈前〉



40

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：浦川カタコ

70 歳当時の作品。自分の布。



41

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：浦川カタコ

三石地方の紋様。



42

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミツ (白布切抜紋衣)

作者：加藤町子



43

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：加藤町子



44

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミブ（白布切抜紋衣）

作者：加藤町子

『36』と同じ紋様。



45

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：加藤里美



46

〈うしろ〉



カハラアミツ (白布切抜紋衣)

作者：小川早苗

〈前〉



47

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：小川早苗

第二作目。



48

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：不明

厚賀地方の紋様。石井清治氏所有。



49

〈うしろ〉



〈前〉

カバラアミツ（白布切抜紋衣）

作者：不明

静内地方の紋様。土肥カツレカ使用。



50

〈うしろ〉



〈前〉

カハラアミフ（白布切抜紋衣）

作者：不明

静内地方の紋様。土肥カツレカ使用。



51

〈うしろ〉



〈前〉

カパラアミツ（白布切抜紋衣）
作者：生徒



52

〈うしろ〉



カハラアミツ (白布切抜紋衣)

作者：生徒

〈前〉



53

〈うしろ〉

チキリイミ（樺太アイヌ刺繍衣）

作者：光野智子（刺繍）、奈良禮子（仕立）

チキリイミは、一般的に千島・樺太アイヌの刺繍衣（チンヂリ）を指す。チキリは「刺繍をした」の意。

本作は藍染めの布に茶のシルクを部分的に施して仕立てた着物に、絹糸で全体に伝統の紋様を刺繍したもの。

オリジナルを元に一年がかりで制作したもの。



〈前〉

オリジナルは、千島樺太交換条約で強制的に対雁に移住させられ、樺太を偲んで泣く女性の気持ちを紛らわすために上野徳衛門が作らせたとされている。



54

〈前〉

アットウシ（樹皮衣）

作者：小川早苗、生徒

アットウシは、オヒョウの内皮繊維で織られた衣服。



〈うしろ〉

二着で一組の着物（アンサンブル）

上は青森市歴史民俗展示館稽古館、下は小樽市総合博物館運河館に展示されていた着物を模写した。



55

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）

作者：中浦泰子

コンクール入賞作。



56

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）

作者：小川早苗

樺太地方の紋様。



57

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）

作者：小川早苗



58

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）
作者：小川早苗、生徒



59

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）
作者：小川早苗、生徒



60

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）
作者：小川早苗



61

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）
作者：小川早苗



62

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）
作者：小川早苗



63

〈前〉



〈うしろ〉

アットウシ（樹皮衣）

作者：小川早苗

樺太紋様。



64

〈うしろ〉



〈前〉

テタラペ（草皮衣）

作者：小川早苗、生徒

樺太紋様。イラクサの繊維を撚り合わせて糸にし、機にかけて反物を織る。この作品は、韓国で購入した生地（チョマ）で作成。



65

〈前〉



〈うしろ〉

テタラペ（草皮衣）
作者：小川早苗、生徒
樺太紋様。韓国の生地。



66

〈うしろ〉



〈前〉

テタラペ（草皮衣）
作者：小川早苗、生徒
樺太紋様。



67

〈前〉



〈うしろ〉

モウル（日常着）

作者：小川早苗

モウルには、日常着、または肌着の意味もある。



68

〈前〉

皮衣

作者：小川早苗

イソルシ（熊皮衣）。樺太熊から作った。



皮衣

作者：小川早苗

イソルシ（熊皮衣）。



皮衣

作者：小川早苗

ユッケ（鹿皮衣）



〈前〉

皮衣

作者：小川早苗

ユック（鹿皮衣）



72

〈前〉

皮衣

作者：小川早苗

オホコ（海豹皮衣）



73

〈前〉

皮衣

作者：小川早苗

オホコ（海豹皮衣）



皮衣

作者：小川早苗

チェプウル（魚皮衣）



〈うしろ〉

75

陣羽織

作者：鷺谷サト

浦河町姉茶で作られたもの。



〈前〉



76



77

現代服

作者：小川早苗、生徒
ウイルタ紋様。

78



79



現代服

作者：小川早苗、生徒



80



81

現代服

作者：小川早苗、生徒
女性用ドレス。



82



83



現代服

作者：小川早苗、生徒



84

現代服

作者：小川早苗

胸元に下げているのは、チシポ（携帯用針入れ）

85



現代服

作者：小川早苗

男性用ズボン



86



87

現代服

作者：小川早苗

女性用ベストとジャケット



88



89

現代服

88：女性用ドレス

作者：千葉幸都美

89：婦人用スーツ（上着）

作者：小川早苗



小物・ 手回り品





90



91

コンチ（帽子）

作者：小川早苗

90：表濃紺、裏アットウシ

91：ウムラウフ（木綿製の防寒用帽子）

92



93



94



95



コンチ（帽子）

作者：小川早苗

92：アタンプサ 93：アタンプサ

94：コンチ（狩猟用の帽子） 95：イカムハッカ（海漁用の帽子）



96



97



98



99

マタンプシ（額飾帯）

作者：生徒

96、97：レクトウンペ

98、99：カムイノミ（儀礼：神に祈るという意味）に着用する礼装のひとつ



100



101



102

マタンプシ（額飾帯）

作者：生徒



サパンペ（103～105、儀礼時冠）、ホシ（106、脚絆）、テクンペ（107～108、手甲）

作者：生徒

サパンペには、その家ごとに伝承された男系の紋様がある。布、樹皮等を使う。

テクンペは、作業時に手を守るために使用する。



109



110

マトゥメル（手袋）

作者：小川早苗

109：樺太紋様

110：毛皮の手袋



エムシアッ（刀帯）

作者：生徒

刀（エムシ）を差す際に使用する肩から掛ける帯。



117



118



119

クッ（帯）

作者：小川早苗

色丹アイヌの帯。組紐や織物、皮で作られたものがある。



120



122



121



123

履物

作者：小川早苗

120：タンビ（足袋） 121：ユクケリ（鹿皮の靴）

122：キロ（獣皮の靴） 123：チェプケリ（魚皮の靴）

チェプケリを履く際は、枯草の中敷き（ケロルンベ）を使用する。



サラニップ（手提げ）

作者：浦川タレフチ（124）、知里真希（125）、石山キツエフチ（126）、太田シモ（127）、不明（128～130）
木の皮などを紐状にして、フチたちが手あそびに作った手提げ袋。



カロップ (バッグ)

作者：小川早苗 (131、132)、小川早苗、生徒 (133)

131、132：狩りの際に男の大切な仕事道具を入れるカバン。

133：エムシアッ紋様のマチつきカバン。

134



135



136

カロップ（巾着） 作者：小川早苗（134） 大切なものを入れる財布型のバッグ。

ニンカリ（耳飾り） 作者：不明（135）

現代風バッグ 作者：生徒（136）



137



138



139

タマサイ（首飾り）
作者：不明（137～143）
交易で入手したもの。



140



141

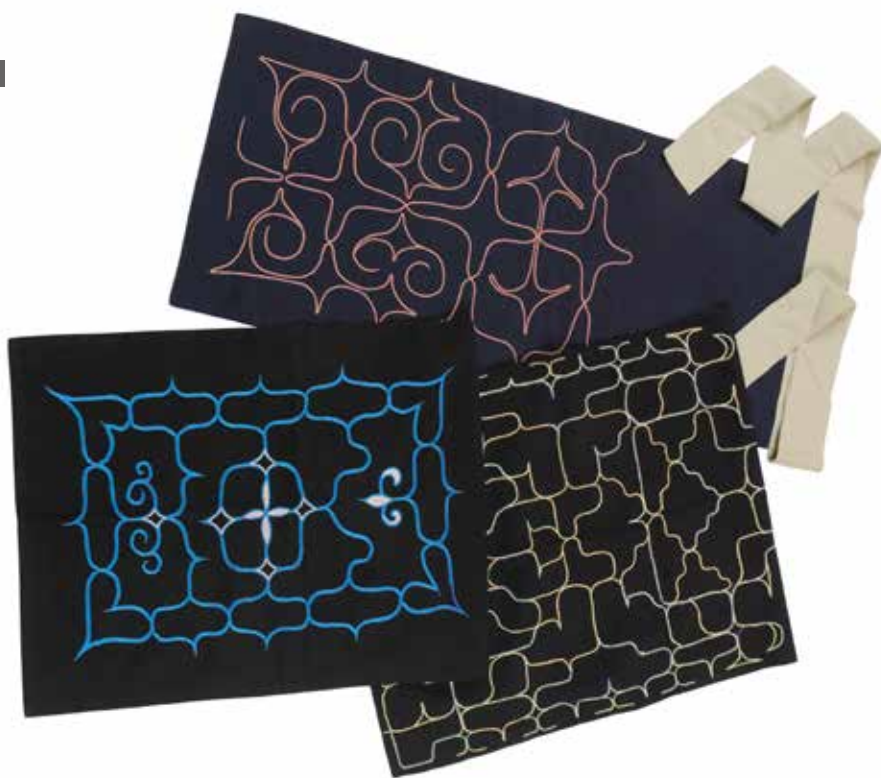


142



143

144



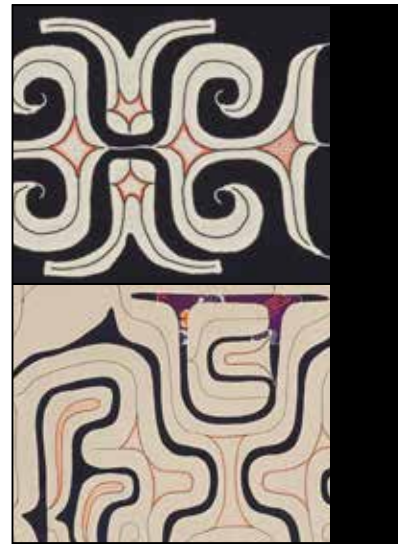
145

マエタリ（前掛け）

作者：伊沢コヤエフチ（144） 伊沢コヤエフチが 100 歳の時の作品。

アイヌ紋様切絵

作者：小川基（145）



タペストリー





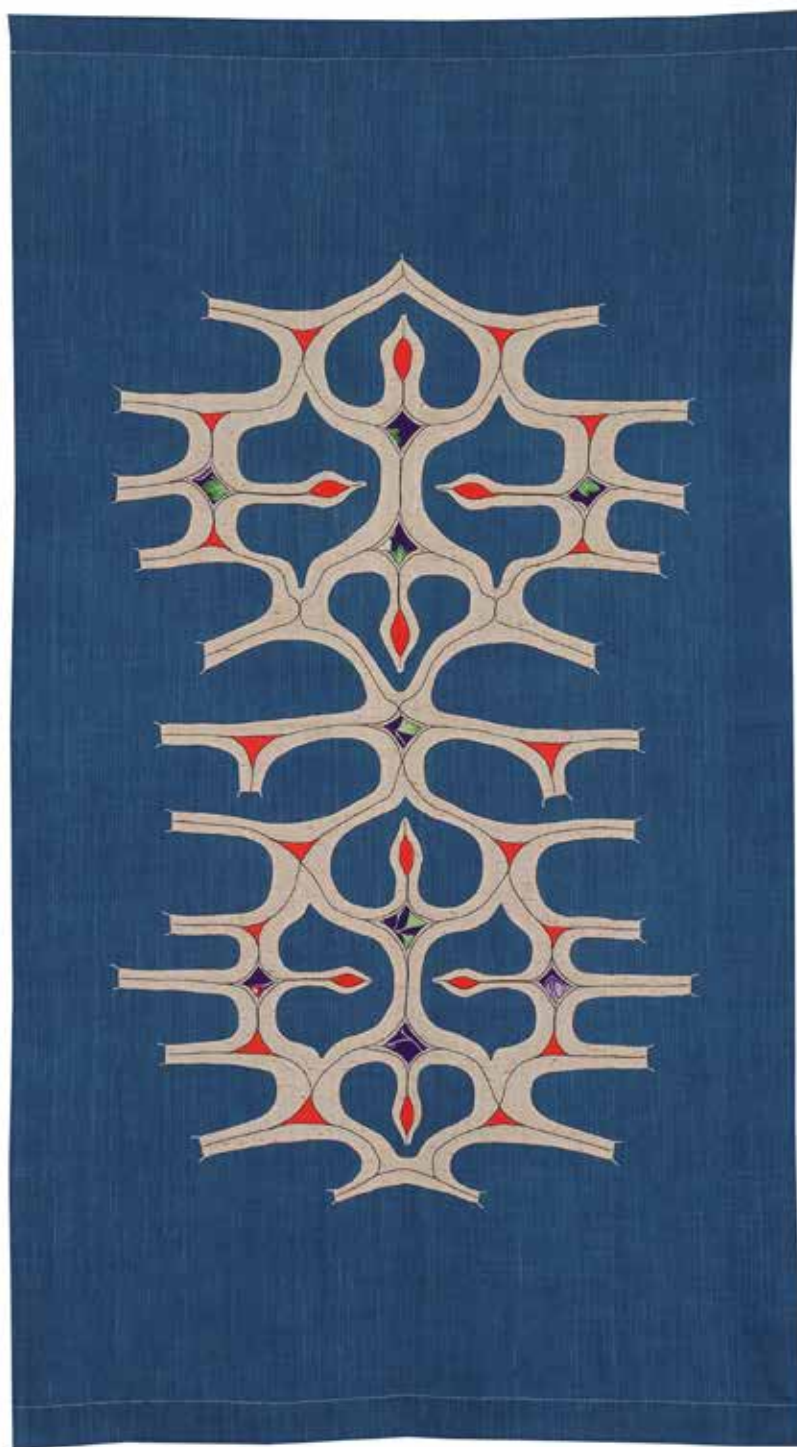
146

タペストリー
作者：加藤町子



147

タペストリー
作者：加藤町子



148

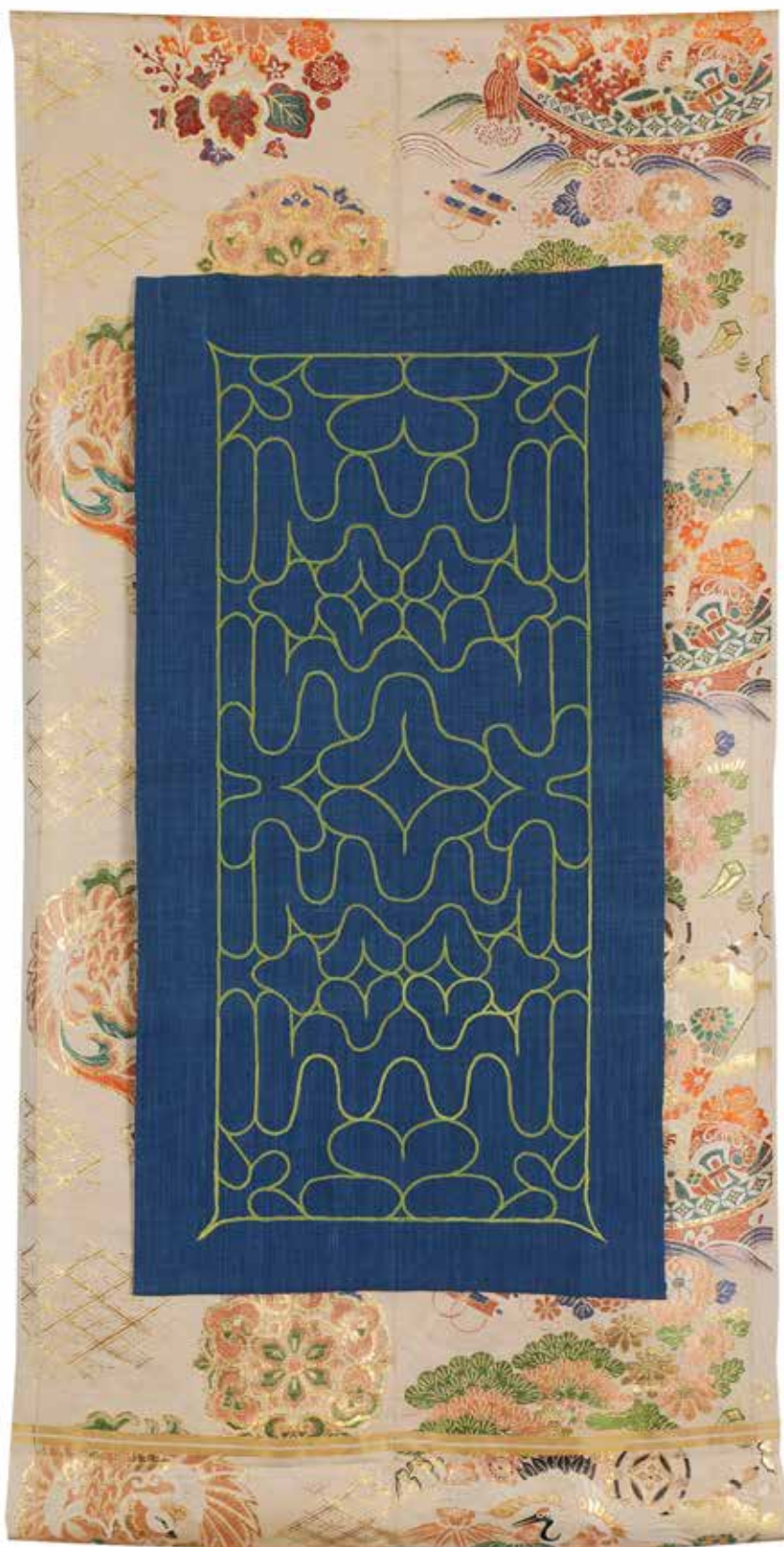
タペストリー
作者：加藤町子



149

タペストリー

作者：加藤町子、石井美香



150

タペストリー
作者：加藤町子
チンデリ



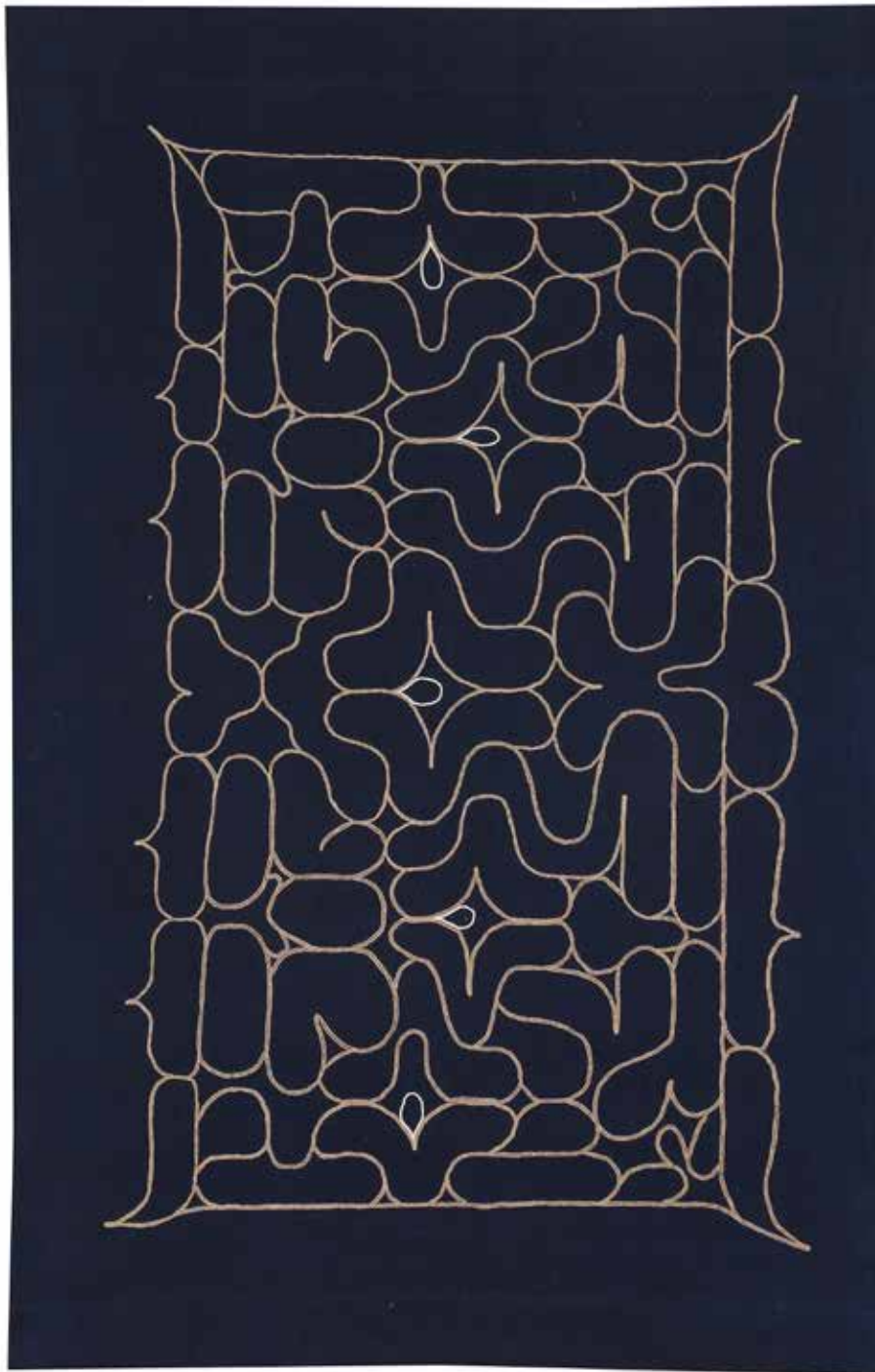
151

タペストリー
作者：小川早苗



152

タペストリー
作者：生徒



153

タペストリー
作者：生徒



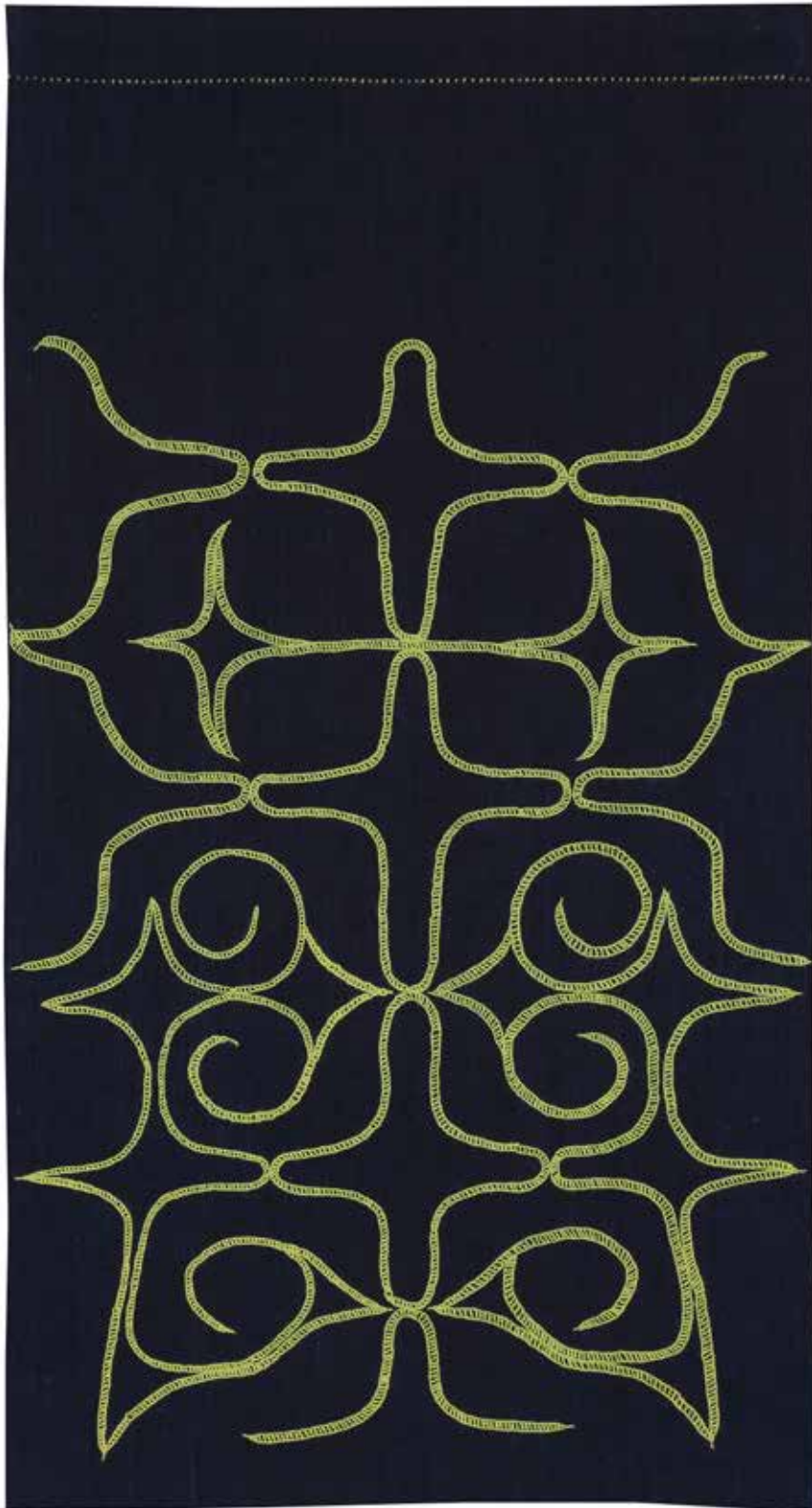
154

タペストリー
作者：生徒



155

タペストリー
作者：生徒



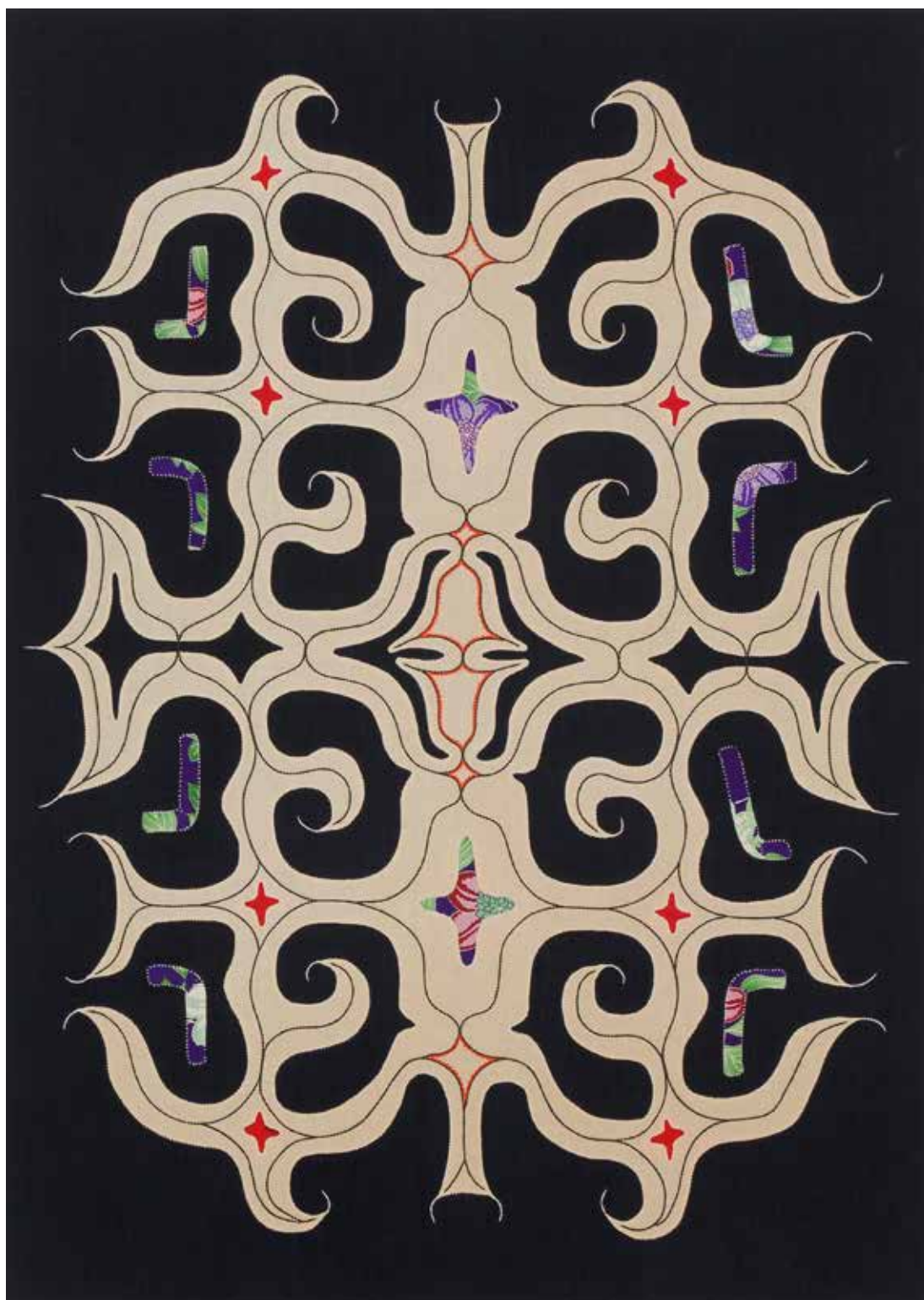
156

タペストリー
作者：生徒



157

タペストリー
作者：生徒



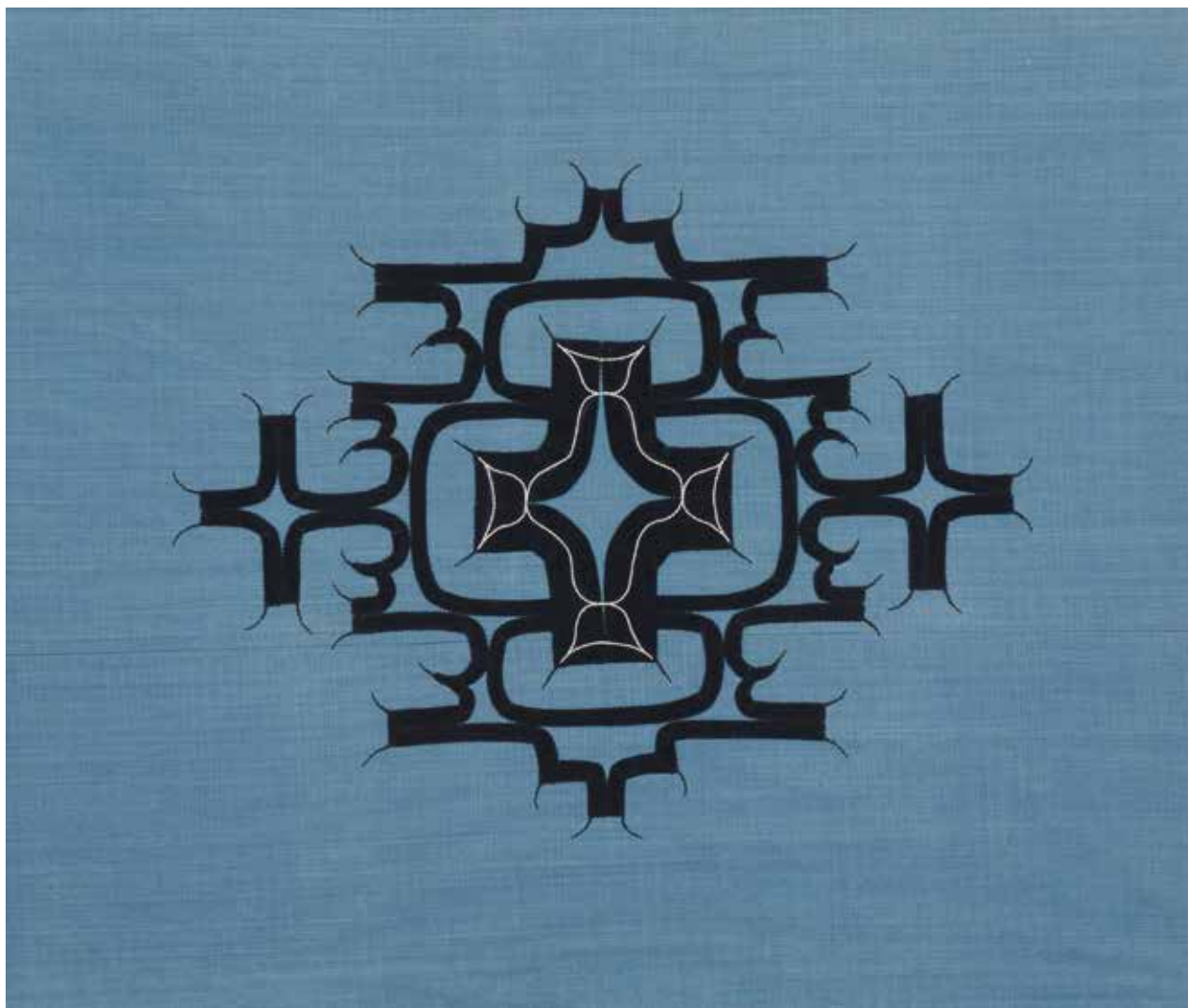
158

タペストリー
作者：加藤町子



159

タペストリー
作者：加藤町子



160

タペストリー
作者：加藤町子



161

タペストリー
作者：加藤町子



162

タペストリー
作者：加藤町子



163

タペストリー
作者：加藤町子



164

タペストリー
作者：加藤町子

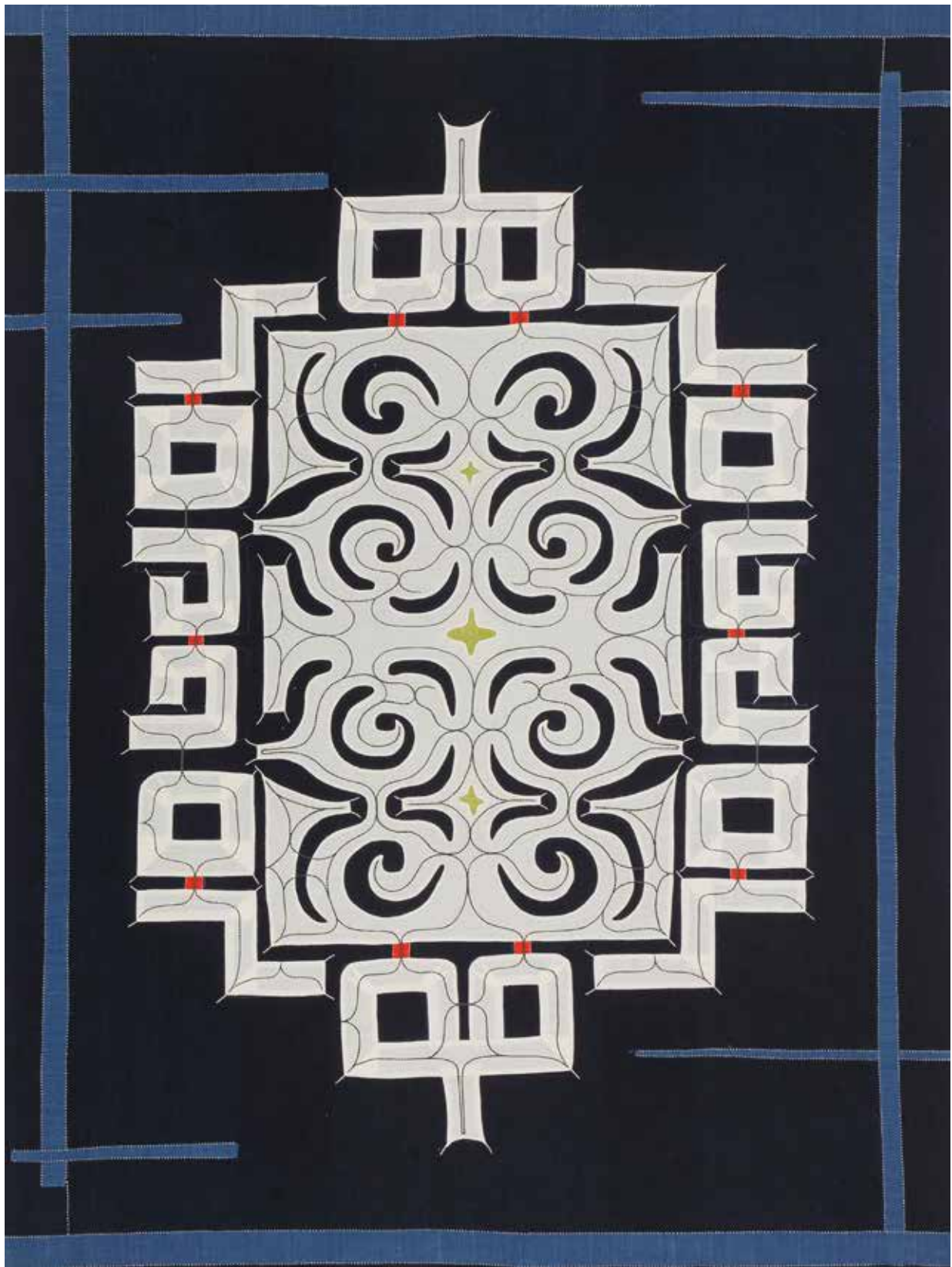


165

タペストリー

作者：加藤町子

ドイツ産業博覧会出品作



166

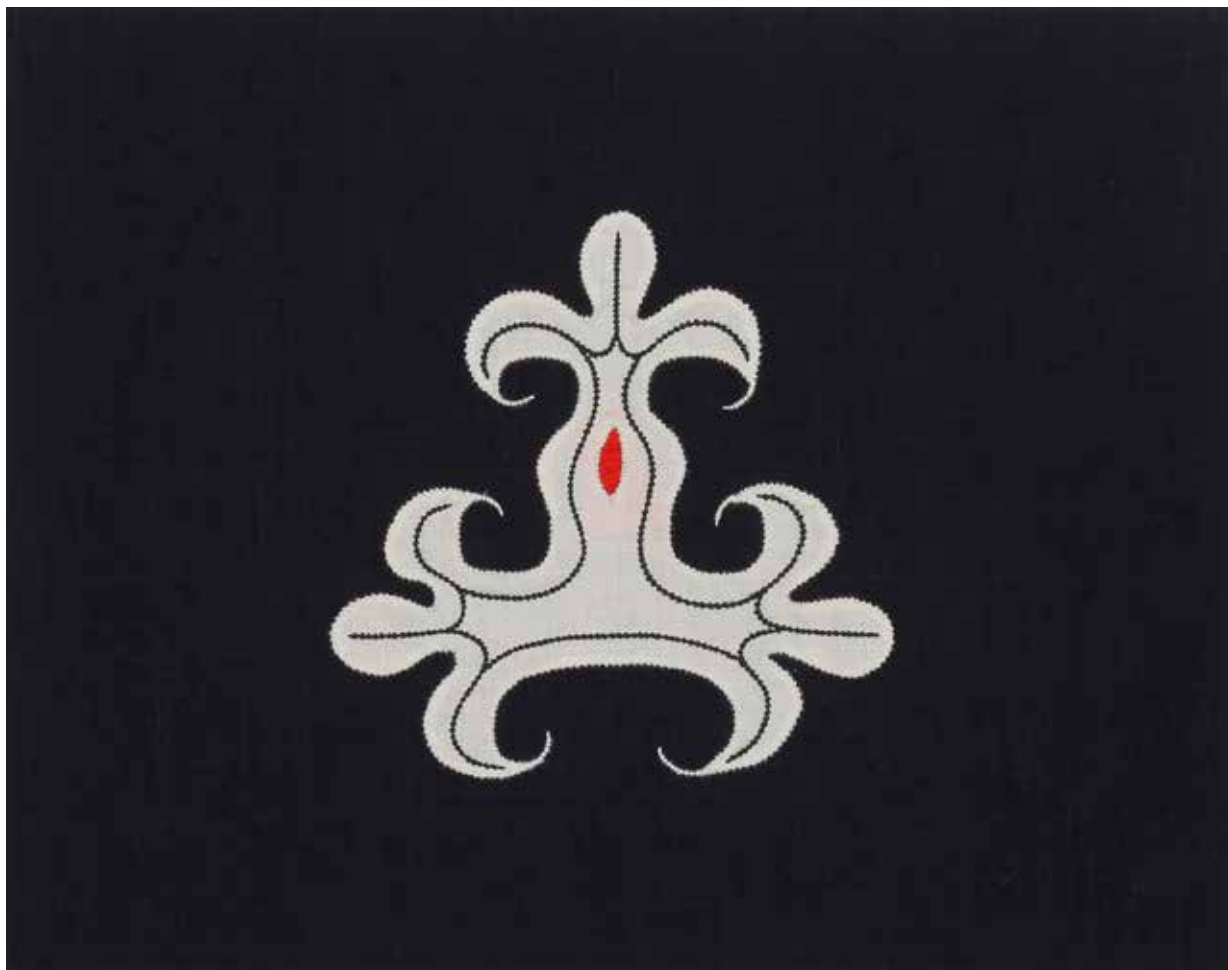
タペストリー

作者：小川早苗（下地）、加藤町子（紋様）



167

タペストリー
作者：加藤町子



168

タペストリー
作者：加藤町子



169

タペストリー
作者：小川早苗



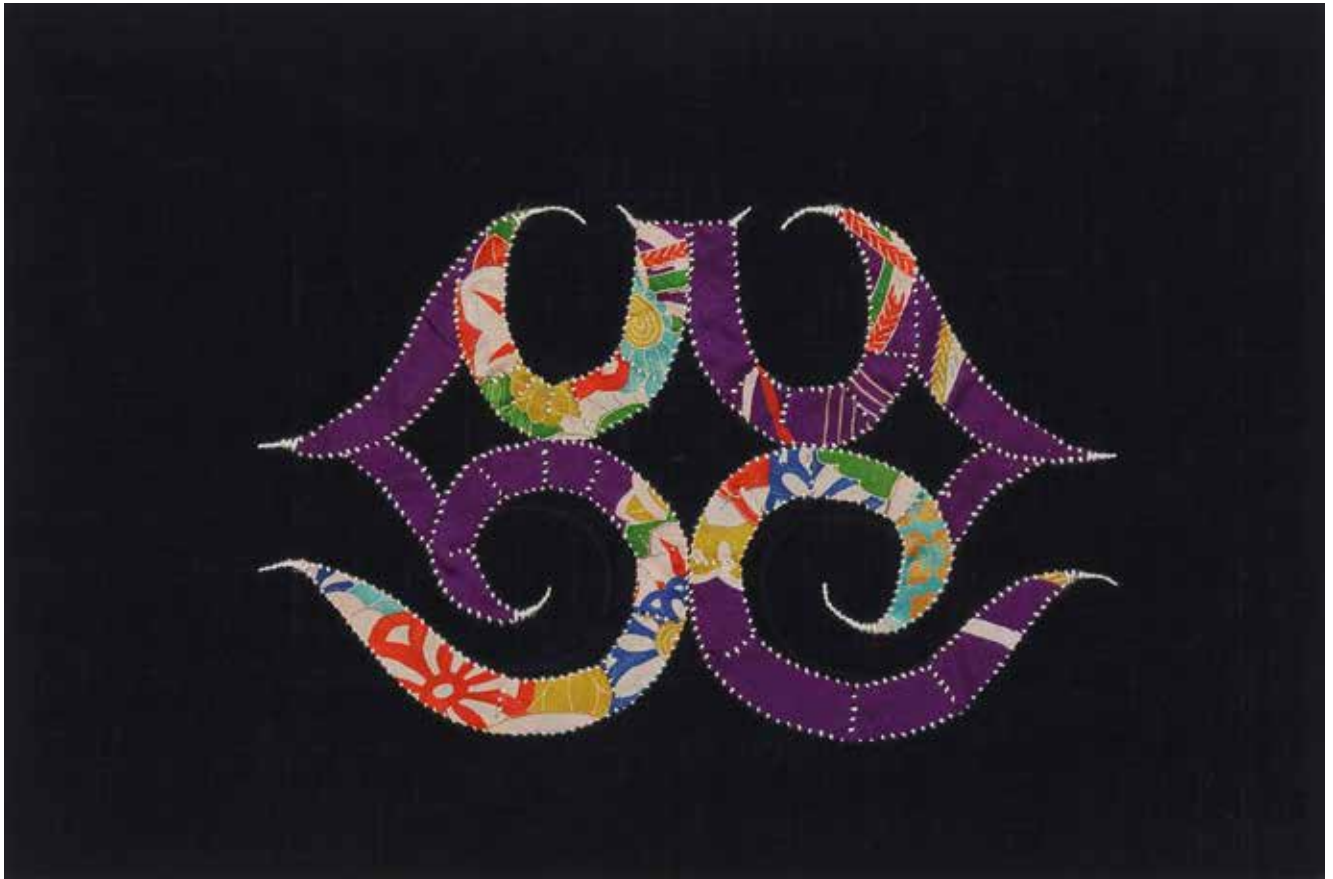
170

タペストリー
作者：小川早苗



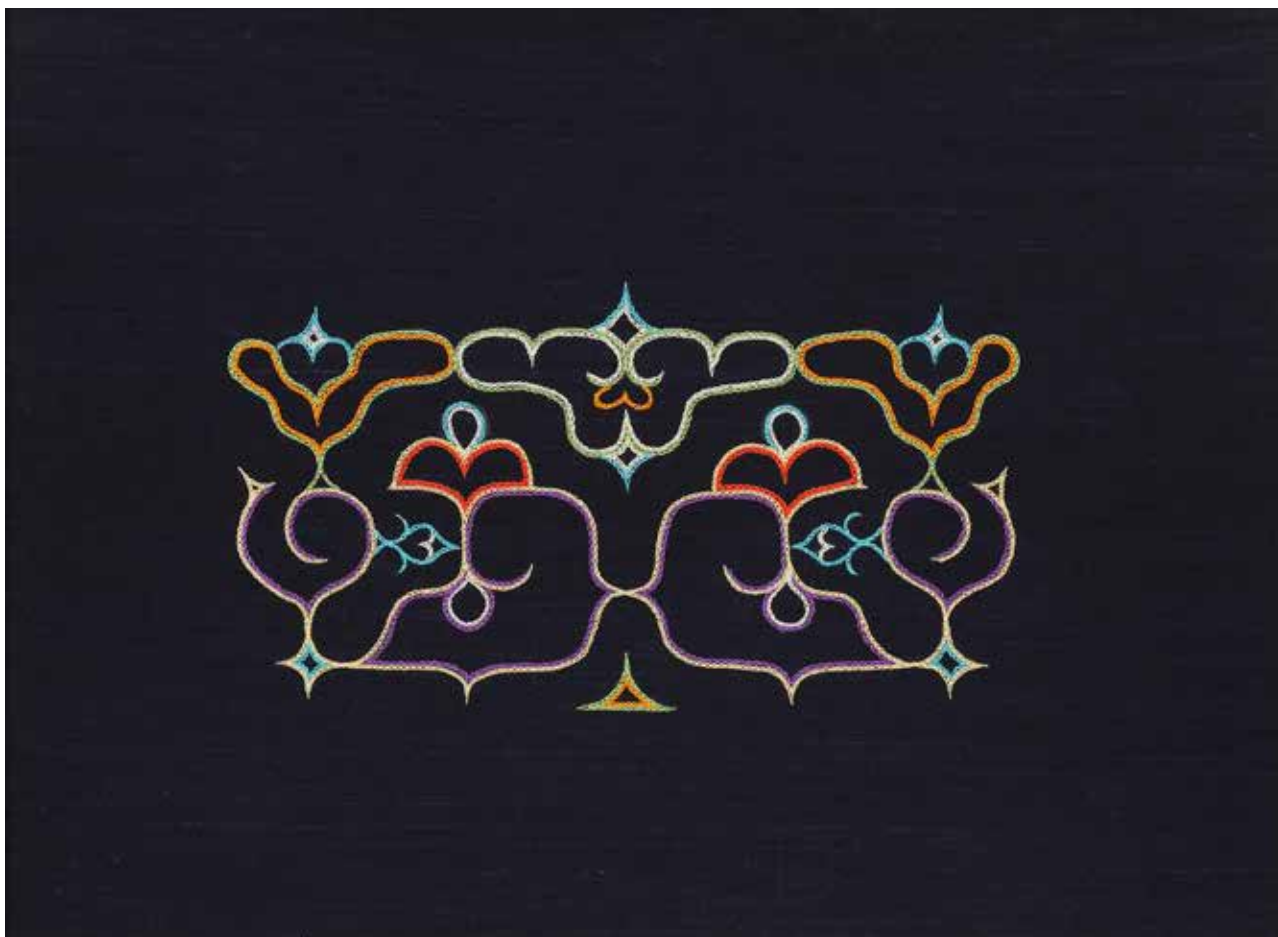
171

タペストリー
作者：加藤里美



172

タペストリー
作者：加藤里美



173

タペストリー
作者：生徒



174

タペストリー
作者：生徒



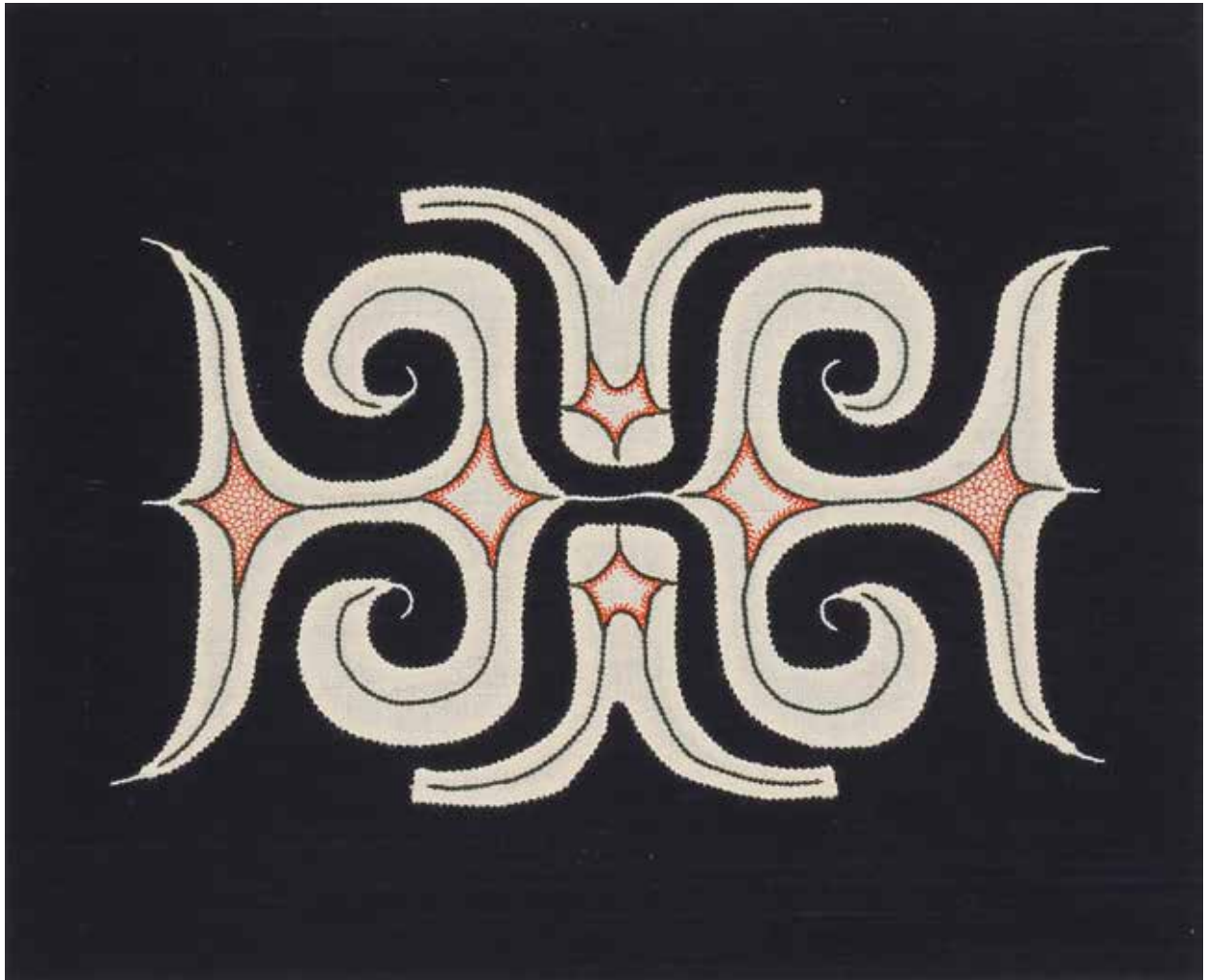
175

タペストリー
作者：不明



176

タペストリー
作者：生徒



177

タペストリー
作者：加藤里美



178

タペストリー

作者：生徒（加藤町子指導）

あとがきにかえて

浦河に生まれて

北海道東部の日高地方に浦河という、ニシン漁で栄えていた町があります。

私が生まれたのは、浦河の^{ハマオギフシ}浜荻伏、父方祖父、日本名浦川亀太郎が所有する漁場です。妻のゆきと懸命に働いた祖父は一代で漁場を作り、一族で船主となり、当時は盛んだったニシン漁をして豊かに暮らしていました。一族の住む家も「小学校ぐらいの大きいお屋敷」とご近所から言われていたほどだったそうです。

亀太郎の息子、米造に嫁いだ私の母、カタコは、漁場で働くヤン衆たちのために、掃除、炊事、洗濯はもちろんのこと、捕れた魚をモッコ担いで運んだりと休む暇もなく働いていたため、私の子守りはヤン衆たちの役目でした。私がお転婆娘に育ったのは、肩車だのマリ投げだの些か乱暴に扱われたせいかもしれません。

ところが、私が三歳のとき、父のタバコの不始末のせいで漁場が全焼してしまったのです。蓄えてあった大量の米も食料も、そして多額のお金も、全部灰になってしまいました。それを目にした母は、こんなに蓄えがあったのなら嫁の私にあんな重労働を強いることはなかったのでは、と愕然としたそうです。そして、私たち家族は、父の不始末に怒った祖父母に家を追い出される羽目となりました。この火事が発端となったのでしょうか、その後、一族の男たちが次々に海難事故で亡くなるという不幸がつづき、みな離散してしまったということです。

三石に移って

住み家と働き場所を失った父と母は、兄、私、妹の三人の子どもを連れ、母の祖父テッパエカシ（日本名：幌村運八）と祖母ウポポアンフチの暮らす三石町ホロケコタンを訪ね、親戚の小さな持ち家に住まわせてもらうことになりました。

三石町でやっと落ち着いてまもなく、終戦の前年に父に召集令状が届きました。そしてサイパン島上陸の二日後に父は戦死しました。私が五歳のときです。私のことをたいそう可愛がってくれたと聞かされても、悔しいことに父の顔をはっきりと覚えていないのです。

幼かった私は、コタンに来る和人の郵便配達員さんに向かって、「早苗の父さん返せ」と泣き叫び、その度に、フチたちが慌てて、私の口におやつツツの甘いものを放り込んで黙らせたそうです。また、汽車が通ると「父さん帰ってくる」と言っては、周りの人たちの涙を誘ったとも。コタンに作られた父さんのお墓にはユリの花とイチゴが植えられました。そのお墓も、文化遺産の発掘調査で掘り返されたらしいと聞いています。

当時のことでよく覚えているのは、コタンのフチたちが口の周りにしていた入れ墨で、いつも私を抱き寄せてチューしてくれたのですが、それが私は大好きで何度もおねだりしてはしてもらったものです。

やがて、親戚が総出で山から木を切り出し、母と子ども三人のためにボンチセ（小さな家）を建ててくれました。屋根は^{まさぶ}桤^し葺き（薄い板を何枚も重ね合わせたもの）で壁も薄い板です。冬の寒さを凌ぐために熊の毛皮を敷いてくれ、枯れ草で布団を作り、食べ物も分け与えてもらうなど、みんなに助けられながら暮らしました。

その家のそばに、大きなハルニレの木（ポロニ）がありました。病弱で歩けない妹の祥子のお守りを任された私は、彼女をフキノトウの上に寝かせ、ポロニの根元に縄でつないで、辺りの食べられる山菜を集めたりしたのを思い出します。賢いのに病気がちな妹に、健康なのに考える力の弱い姉が申し訳ないことをしましたが、その妹も五歳で、モシリホッパ（この世を後にしました）。

ポロニは特別な木で、ホロケコタンにはウムレク（夫婦）と称される一対が三箇所さんか所に植わっていました。春になると、天にそびえるそれら三組のポロニの下でハルエカムイノミの儀式が行われました。お供物を捧げ、「食べ物たべものの神、病・災害の^{やまい}カムイよ、このコタンを避けて通ってください」と祈るのです。エカシ（おじいさん）やアチャポ（おじさん）たちが祈祷しつつ、チッカチッカ（火のカムイ）にパスイ（酒箸）で酒を落とします。

こういった祭事には、テッパエカシやウポポアンフチはもちろんのこと、コタンの人々みながアイヌの正装で参加します。そして祈りの後、みんなが持ち寄った供物を頂くのですが、あの楽しい

賑わいは今もはっきり覚えています。

私にとって戦争とは、ご飯を食べられないもの、飛行機が橋や鉄橋を破壊するものでした。老いたエカシはリヤカーに乗せられて神社に行かされ、敵機が落ちるように祈願することを要請されました。日の丸の旗を背にし、和人のためにです。エカシをリヤカーで運んだ子どもたちは、供物のお裾分けにあずかれるのを楽しみにカムイノミが終わるのを待って無邪気なものでしたが、私は「なんでカムイノミしたら飛行機が落ちるんだろう？」と不思議で割り切れない思いでした。

エカシたちやフチたちがしっかりと守るアイヌ民族の作法や風習を見て真似て育ったこの当時の生活は、私の生き方の基礎を成したのだと、今つくづく実感します。厳しく教え込まれたわけではなく、自然に、目と手と心で学ぶように伝えてもらったのです。

風習の一つとして、モシリホッパ（葬儀）のたびに、故人の着物を形見分けする習慣がありますが、私もいろいろな着物をいただき、その結果、本書にご紹介したとおりの貴重な着物が数多く集まってくれました。

学校時代を

終戦後二年ほどすると、樺太からの引き揚げの人たちや、国の政策による本州からの移民の人たちが大勢入植し、三石にも人が溢れ、道端に生えている、食用植物を採集するおばさんをあちこちで見かけるようになりました。

私が小学校に入学したのは、町の様子が大きく変わったそんなときでした。母が自分の帯をほどいて作ってくれた可愛いドレスを着て、期待に胸をふくらませて通い始めた学校でしたが、夢はあっけなく消え去ります。ひどいいじめが怖くて、どうしても通学できなくなってしまったのです。

でも、中学生になると、小林辰雄先生、杉本茂先生、橘先生とおっしゃる三人の先生がアイヌ民族を大切に思い、人権を護る教育をしてくださったおかげで、登校できるようになりました。そして、生徒会の委員や風紀委員長になり、腕章をつけて通学するようになった結果、アイヌへのいじめも徐々に減り、アイヌの子たちの教師になるのが私の夢になりました。

母と子ども三人の当時の生活を、母はしっかりと支えてくれていました。コンブ採りや畑仕事な

ど、いつも働いている母を見て、「母さんは寝ないし食べない人」だと私は思っていたようです。食糧難の苦労も実感しないぐらい、私たち子どもは母と祖父母と親戚たちに守られていたのですね。

本州からの農業移民には戦後も開拓政策が適用されて、指定期間内に開墾すればその土地を譲渡されたため、広大な田畑を持つようになった人たちも多かったようです。しかし、狩猟採集中心の生活で、農耕の伝統のなかったアイヌ民族の母は、要領よく変化に応じられなかったのか、旧土人保護法による給与地三反四畝（1020坪、3366㎡）の水田を耕作していました。

そんな中、私の兄は勉強好きな優等生でしたが、一家の状況を察したのでしょうか。家族のために中学校を休学してイカ釣り船に乗せてもらったことがあります。自転車の後ろにイカのいっぱい詰まった箱を積んで帰ってきたとき、母は泣いて喜びました。そのイカは、お世話になった中学の先生にもお届けしました。

母は、私たちの父の死後、親戚の勧めで松前の足軽だった男性と結婚させられました。兄と私はうれしくて、「父さんが来る」とみんなに言い回ったものです。とても優しい人でしたが、実は松前に家族がいることがわかったとき、母は許せず、家を出て行ってもらわざるをえませんでした。その時の父との間に生まれたのが妹の町子です。

生活保護のない当時、子どもを抱えた母親は再婚するのが当然とされ、まともな親戚の話し合いの結果、母は親族のおじさんと結婚させられて、美代子が生まれました。

結婚して

親戚の紹介で浦河の生協職員だった小川隆吉と出会ったのは、私が22歳のときでした。自然に結婚を決めたのは、お互いに好意をもったからでしょうね。結婚後もしばらく浦河に住んで、長男の智志と長女の純子が生まれ、周りのみんなに可愛がられて、平和な暮らしでした。

夫は、子どもたちのためにもっと給料のいい職を得たいと考え、職業訓練校に通えるように一家で札幌に引っ越すことを決めました。最初に移り住んだ中央区の伏見で、次男の基が誕生。上の子ふたりは、保育園でも小学校でも差別を経験することもなく、いつも守ってくれる人たちに恵まれ

た、穏やかな生活でした。

その後、隆吉は仕事を転々としていましたが、まもなく白石区北郷に古い一軒家を購入。一家五人の暮らしが続きました。が、ここの小学校で長男へのいじめが始まったのです。上の子ふたりが毎日辛そうに学校から帰ってくる姿を目にするのは、ほんとうに心が痛みました。何度も学校へ相談に行きましたが、何も状況が変わることはありませんでした。

悩んだ私は、あることを決心しました。アイヌの誇りを持って、アイヌの着物を着よう、そうすることで、アイヌを蔑む人たちに私たちの存在をわかってもらおうと。そこで、アイヌの着物を作ろうとしたのですが、しばらく作ってこなかったこともあって、正しい刺繍のやり方も思い出せません。それで、34歳のとき、三上まりこさんの刺繍教室に通い始めました。三上まりこさんは和人ですが、昔からアイヌ紋様に興味を持たれ、児玉コレクションの児玉氏の助手となって、児玉氏と共にあちこちの部落を回ったりもしていた方です。また、北大植物園の難波琢雄先生には、イラクサやオヒョウの樹皮をはぎ、糸にする手法・工程を教わりました。

ところが、習い直して自分で刺繍したアイヌの着物を身につけ、外出しようとする、娘が「学校でいじめられるから、やめて」と嘆願するので。それでも、アイヌとして胸を張って生きる姿を子どもたちにも見せたくて、頑張り通しました。すると、娘も次第に喜んでくれるようになり、ついには二人してシャクシャインのイチャルパ（ご先祖供養の儀式）にもアイヌの装いで行ったりできるようになりました。嬉しかったですね。

するうち、周りの雰囲気も少しずつ変わり、小柄でいじめられていた長男も、サッカー試合にヘディングで得点するようになってから、だんだん仲間にとけ込めて行けたのです。

そして、今

長く続いてきたアイヌの伝統や習慣を、一時は隠して暮らした時代もありました。生活のため、そうせざるをえなかったのです。でも、私が作った着物や刺繍に大喜びしてくれる祖母や母たちを見ると、どんどん作りたくなり、いつしか、アイヌの伝統的な着物を作るのが私の職業になっていました。というより、天職だと気づいたのです。

我が家に作業所を作り、大勢の生徒さんたちが

通ってきて熱心に学んでくれました。共同制作の日など、手も口も忙しく、和気あいあいの楽しい時間でした。

そして、国内外で作品の展示活動をおこなうようになりました。国内では各地の民主的な考えを持たれる方々が作品展を開いてくださいました。外国では、アラスカ州のフェアバンクス、オレゴン州のポートランド、カナダのアラートベイ、カナダ国立オタワ博物館など、北米各地で展示会を開催し、たくさんの方々に見ていただきました。

アメリカのイリノイ大学での作品展の際には、アイヌ料理を提供したりもしました。大きな体のアメリカ人男性が、発泡スチロールのどんぶりを手に、ニコニコしながら長い行列の中で待ち、言葉も通じないのに、町子と私を励ましてくださいました。

今、私が願うこと、それは、子供たちや孫たちがお友だちと楽しく時をすごし、先住民族アイヌに差別のない学校教育、和語もアイヌ語も共に学び、お互いの文化を尊重して暮らせる社会をみんなで育てようと努力してほしい。それだけです。

2019年12月吉日

小川 早苗

収録作品

	種類	作者	掲載 ページ
1	サクリ	不明	6
2	サクリ	小川早苗	8
3	チンヂリ	不明	10
4	チンヂリ	不明	12
5	チンヂリ	不明	14
6	チンヂリ	小川純子	15
7	チンヂリ	吉野結花、奈良禮子	16
8	チンヂリ	浦川カタコ	17
9	チンヂリ	不明	18
10	チンヂリ	浦川カタコ	19
11	ルウンペ	加藤町子	20
12	ルウンペ	加藤町子	22
13	ルウンペ	加藤町子	23
14	ルウンペ	加藤町子、生徒	24
15	ルウンペ	加藤町子、生徒	25
16	ルウンペ	加藤町子	26
17	ルウンペ	加藤町子	27
18	ルウンペ	加藤町子	28
19	ルウンペ	加藤町子	29
20	ルウンペ	加藤町子	30
21	ルウンペ	加藤町子	31
22	ルウンペ	加藤町子	32
23	ルウンペ	生徒合作	33
24	ルウンペ	生徒合作	34
25	ルウンペ	生徒合作	34
26	ルウンペ	不明	35
27	ルウンペ	加藤町子指導	35
28	ルウンペ	加藤町子	36
29	ルウンペ	加藤町子、生徒	36
30	ルウンペ	加藤町子	37
31	カパラアミブ	チンフチ	38
32	カパラアミブ	ウボポアンフチ	40
33	カパラアミブ	三石ウボポアンフチ	42
34	カパラアミブ	ウボポアンフチ	44
35	カパラアミブ	小川早苗	46
36	カパラアミブ	不明	47
37	カパラアミブ	ウボポアンフチ	48
38	カパラアミブ	浦川カタコ	49
39	カパラアミブ	浦川カタコ	50
40	カパラアミブ	浦川カタコ	51
41	カパラアミブ	浦川カタコ	52
42	カパラアミブ	加藤町子	53
43	カパラアミブ	加藤町子	54
44	カパラアミブ	加藤町子	55
45	カパラアミブ	加藤里美	56
46	カパラアミブ	小川早苗	57
47	カパラアミブ	小川早苗	58
48	カパラアミブ	不明	59
49	カパラアミブ	不明	60
50	カパラアミブ	不明	61
51	カパラアミブ	生徒	62
52	カパラアミブ	生徒	63
53	チキリイミ	光野智子、奈良禮子	64
54	アットウシ	小川早苗、生徒	66
55	アットウシ	中浦泰子	68
56	アットウシ	小川早苗	69
57	アットウシ	小川早苗	70
58	アットウシ	小川早苗、生徒	71
59	アットウシ	小川早苗、生徒	72

60	アットウシ	小川早苗	73
61	アットウシ	小川早苗	74
62	アットウシ	小川早苗	75
63	アットウシ	小川早苗	76
64	テタラペ	小川早苗、生徒	77
65	テタラペ	小川早苗、生徒	78
66	テタラペ	小川早苗、生徒	79
67	モウル	小川早苗	80
68	イソルシ (皮衣)	小川早苗	81
69	イソルシ (皮衣)	小川早苗	82
70	ユック (皮衣)	小川早苗	83
71	ユック (皮衣)	小川早苗	84
72	ォホコ (皮衣)	小川早苗	85
73	ォホコ (皮衣)	小川早苗	86
74	チェブウル (皮衣)	小川早苗	87
75	陣羽織	鷺谷サト	88
76	現代服	小川早苗、生徒	89
77	現代服	小川早苗、生徒	89
78	現代服	小川早苗、生徒	90
79	現代服	小川早苗、生徒	90
80	現代服	小川早苗、生徒	91
81	現代服	小川早苗、生徒	91
82	現代服	小川早苗、生徒	92
83	現代服	小川早苗、生徒	92
84	現代服	小川早苗	93
85	現代服	小川早苗	94
86	現代服	小川早苗	95
87	現代服	小川早苗	95
88	現代服	千葉幸都美	96
89	現代服	小川早苗	96
90	コンチ (帽子)	小川早苗	98
91	コンチ (帽子)	小川早苗	98
92	コンチ (帽子)	小川早苗	99
93	コンチ (帽子)	小川早苗	99
94	コンチ (帽子)	小川早苗	99
95	コンチ (帽子)	小川早苗	99
96	マタンプシ (額飾帯)	生徒	100
97	マタンプシ (額飾帯)	生徒	100
98	マタンプシ (額飾帯)	生徒	100
99	マタンプシ (額飾帯)	生徒	100
100	マタンプシ (額飾帯)	生徒	101
101	マタンプシ (額飾帯)	生徒	101
102	マタンプシ (額飾帯)	生徒	101
103	サパンペ (儀礼時冠)	生徒	102
104	サパンペ (儀礼時冠)	生徒	102
105	サパンペ (儀礼時冠)	生徒	102
106	ホシ (脚絆)	生徒	102
107	テクンペ (手甲)	生徒	102
108	テクンペ (手甲)	生徒	102
109	マトウメル (手袋)	小川早苗	103
110	マトウメル (手袋)	小川早苗	103
111	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
112	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
113	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
114	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
115	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
116	エムシアッ (刀帯)	生徒	104
117	クッ (帯)	小川早苗	105
118	クッ (帯)	小川早苗	105
119	クッ (帯)	小川早苗	105
120	タンビ (足袋)	小川早苗	106

121	ユッケリ（鹿皮の靴）	小川早苗	106
122	キロ（獣皮の靴）	小川早苗	106
123	チェブケリ（魚皮の靴）	小川早苗	106
124	サラニップ（手提げ）	浦川タレフチ	107
125	サラニップ（手提げ）	知里真希	107
126	サラニップ（手提げ）	石山キツエフチ	107
127	サラニップ（手提げ）	太田シモ	107
128	サラニップ（手提げ）	不明	107
129	サラニップ（手提げ）	不明	107
130	サラニップ（手提げ）	不明	107
131	カロップ（バッグ）	小川早苗	108
132	カロップ（バッグ）	小川早苗	108
133	カロップ（バッグ）	小川早苗、生徒	108
134	カロップ（巾着）	小川早苗	109
135	ニンカリ（耳飾り）	不明	109
136	現代風バッグ	生徒	109
137	タマサイ（首飾り）	不明	110
138	タマサイ（首飾り）	不明	110
139	タマサイ（首飾り）	不明	110
140	タマサイ（首飾り）	不明	111
141	タマサイ（首飾り）	不明	111
142	タマサイ（首飾り）	不明	111
143	タマサイ（首飾り）	不明	111
144	マエタリ（前掛け）	伊沢コヤエフチ	112
145	アイヌ紋様切絵	小川基	112
146	タペストリー	加藤町子	114
147	タペストリー	加藤町子	115
148	タペストリー	加藤町子	116
149	タペストリー	加藤町子、石井美香	117
150	タペストリー	加藤町子	118
151	タペストリー	小川早苗	119
152	タペストリー	生徒	120
153	タペストリー	生徒	121
154	タペストリー	生徒	122
155	タペストリー	生徒	123
156	タペストリー	生徒	124
157	タペストリー	生徒	125
158	タペストリー	加藤町子	126
159	タペストリー	加藤町子	127
160	タペストリー	加藤町子	128
161	タペストリー	加藤町子	129
162	タペストリー	加藤町子	130
163	タペストリー	加藤町子	131
164	タペストリー	加藤町子	132
165	タペストリー	加藤町子	133
166	タペストリー	小川早苗、加藤町子	134
167	タペストリー	加藤町子	135
168	タペストリー	加藤町子	136
169	タペストリー	小川早苗	137
170	タペストリー	小川早苗	138
171	タペストリー	加藤里美	139
172	タペストリー	加藤里美	140
173	タペストリー	生徒	141
174	タペストリー	生徒	142
175	タペストリー	不明	143
176	タペストリー	生徒	144
177	タペストリー	加藤里美	145
178	タペストリー	生徒（加藤町子指導）	146

小川早苗

エテケカンパの会会長、アイヌ文化伝承の会手づくりウタラ主宰として、アイヌ文化の伝承活動に尽力してきた。特に、アイヌ文様や刺繍の作品展を国内外で精力的に開催し、伝統工芸品の復元、展示公開をとおして、アイヌ文化の伝承・保存並びにその振興に寄与した。現在は後進の指導育成とアイヌ文化の普及啓発に積極的に取り組んでいる。

加藤町子

小川早苗氏の妹。20代の頃よりアイヌ刺繍を始め、以来、アイヌ刺繍家として長きにわたり、伝統的なアイヌ衣服全般の制作、アレンジした現代的なアート作品を手がけてきた。作品は内外から高く評価され、同胞や一般市民にアイヌ刺繍を広めた先駆けであるとともに、指導者として多くの刺繍家の育成にも尽力している。

写真撮影：小森学（作品番号 1-6、8-12、14-41、43-52、54、56-57、60-66、68-87、89-90、98、99、114-116、120、123-126、128-132、134、136、144、146-178）

公益財団法人アイヌ民族文化財団 提供（作品番号 7、13、42、55、67、88、111、112）

（上記以外は外部提供写真）

伝えたい アイヌ民族の紋様

2020年2月28日 第1刷発行

著 者——小川早苗

加藤町子

発行者——山本光伸

発行所——株式会社 柏艚舎

北海道札幌市中央区北2条西3丁目1番

電話＝011-219-1211

ファックス＝011-219-1210

発売所——株式会社 星雲社（共同出版社・流通責任出版社）

東京都文京区水道1丁目3番30号

電話＝03-3868-3275

印刷・製本——大日本法令印刷 株式会社

©2020 Sanae Ogawa/Machiko Kato Printed in Japan ISBN978-4-434-27027-7